

2017 年度年報

公益社団法人 高知県自治研究センター

目 次

「2017 年度年報」の発行にあたって

1. はじめに	P2
2. シンポジウム・セミナーについて	P3
3. 調査・研究活動について	P12
4. 組織運営について	P12
5. 2017 年度収支報告及び監査報告	P14
6. 高知県自治研究センター2017 年度会員名簿	P22

「2017 年度年報」の発刊にあたって

1. はじめに

2017 年度は、2015 年度よりスタートした連続シンポジウムである「少子化の流れに抗して（全 7 回）」で深めた認識や視点、課題などを基に高知県に対する政策提言を作成し、高知県知事に対して提言を行った。また、連続シンポジウムである「3.11 東日本大震災から高知は学ぶ（第 7 回）」、哲学者・内山 節氏によるセミナー「改元で、東京オリンピックで、日本はどう変わる？高知はどう変わる？」を開催した。

また、2016 年度をもって休止することとした「高知市における中心市街地再生のための施策についての研究」の一つの集約点として、「空き家問題を考えるシンポジウム」を開催した。

調査研究活動では、新たな活動として、女性の活躍推進が社会的に進められる中、まだまだ女性が活躍できる社会環境とは言い難い状況であり、真に女性が活躍するためにはさまざまな課題の解消は不可欠であるとの認識から、県内の働く女性の実態を調査する「女性の活躍に関する調査研究活動」に着手をした。一方、「中山間地域における内発的発展地域産業モデル研究」については、研究への着手を模索してきたが、核となる人物の多忙等があり、断念することとした。

また、いの町の中山間地域をターゲットとした実践的地域づくりの調査・研究が行われることとなっていくが、これは自治研究センターで大きなテーマとしてきた「持続可能な集落」に関する研究事業でもあることから、積極的にかかわり、共同研究の形を目指していくこととした。

2. シンポジウム・セミナーについて

各シンポジウム及びセミナーについて概略を記すと、

〈シンポジウム〉 空き家問題を考えるシンポジウム

2017年9月23日（土）開催

〈連続シンポジウム〉 3.11 東日本大震災から高知は学ぶシンポジウム

2018年2月10日（土）開催

〈セミナー〉 内山節セミナー

2018年3月1日（木）開催

の全3回を開催した。開催の企画にあたっては、当センター理事および外部識者による協議を行い、テーマ設定や講師・パネラーの選定等について助言を受けながら構成してきた。各シンポジウムでの概要および参加者の感想は以下のとおりである。なお、当日の講義録は、冊子にまとめて当センターのホームページに掲載してあるので、詳細についてはそちらをご覧ください。

① 空き家問題を考えるシンポジウム

「なぜ人は減り続けるのに、家は増え続けるのか
～過剰な住宅を抱えた社会の処方箋～」

開催日：2017年9月23日（土）

会場：高知県立人権啓発センター

基調講演：野澤 千絵（東洋大学理工学部建築学科教授）

パネルディスカッション：

パネラー 野澤 千絵（同上）

山田 浩二（一般財団法人日本不動産研究所）

岡本 明才（(株)ライフ・カラーズ）

門吉 直人（高知市都市建設部長）

コーディネーター：山村 一正（自治研センター理事）

要 旨：

野澤氏は、空き家は右肩上がりに増加しており、また空き家予備軍も多数あり、有効活用がそのまま進まないと2033年には3戸に1戸が空き家になるとの予測もあるとし、こうした「負動産」といわれる空き家を価値ある不動産へ転換していく必要があるとの見解を示した。

また、空き家の増加のみならず、公共施設やインフラの老朽化も進み、「まち」の老いが進行していることも課題としてあり、そうしたことにより、長期的に見ると今と同じように暮らせるかどうか非常に未知数であるということに気づいてもらいたいと述べた。



また、都市計画法の規制緩和による市街地の拡大により、都市計画としてコントロールできない状況となっており、市街化区域で整備してきたインフラが活用されず、さらに市街化調整区域での住民同士のあつれきなどが生じていると指摘。

その上で、増分主義から減分主義に転じ、住宅政策と都市計画を連携していくことが必要であり、1人1人が当事者意識を持ち、将来リスクを見極めて考えていかないといけない時代に突入したことを再認識してもらいたいとした。

《参加者アンケート》

① 第1部 基調講演

- ・大変わかりやすくまとめられていて、問題について、深く理解する事ができました。
- ・よくまとまっていたが、概論的な部分が来客にレベルがあっていたらどうか。
(一般の人は自分の空家をどう使おうかのレベルではないだろうか)
- ・空き家の現状について理解でき、将来への対策については、なかなか難しいのではと感じた。
- ・住宅過剰の現状や都市計画上の課題など幅広く、内容が分かった。
野澤先生の空き家提案バンクの提案など参考になった。
- ・空家問題が都市生活に悪影響を及ぼしてしまい、複合的な問題になってしまうことを知りました。
- ・今までモヤモヤしていた空き家の問題、関係する法令の内容が良く理解できました。
- ・行政として、立地適正化計画にどのような視点が必要か、また、その計画を実現させるために、どのように住民のコンセンサスを得ていくのか、行政と住民、またそれを実現するための担い手、それぞれの役割が腑に落ちるお話でした。
- ・自分が住んでいる市も空き家が多くあり、今回見た状態の空き家を多々見かけたり、聞いたりしています。あまり自身に関係ないと思っていましたが、まずは関心を持つ事が大切だなと感じました。
- ・活用できないほどの空家も多い私の街。隣家の方が買い取ったり、近隣の人たちが利用できる場にはとても良いと感じました。反面、売却する気がない、活用する気もない、という所有者への働きかけは大変かなと思いました。
- ・地方に多いと思っていた空家問題が、都市部でも広がっている事に驚くと共に、相続されない家・土地が多くあるのだと知りました。地方での相続がされず、都市部への人口の流れが1つの原因だと思う空家問題だと思っていたものが、なぜ、都市部での空家が多いのか不思議に思いました。現代の人の先祖、親からのものを受け継ぐという思いよりも、新しい物への興味・関心の大きさもあるのかと思いました。
- ・空家問題を視点として日本に住み、生活する者として、暮らし方、意識の持ち方の転換期にもう今、直面しているという実感を得ることができました(当事者意識)。また、今までは自身の実家や身近な空家に関する“困ったな…”ぐらいしかあまり考えていませんでしたが、都市計画という公共視点での意識の持ち方にも気づかされました。
事例も多く具体的で大変興味深かったです。
- ・空き家の話にとどまらず、都市計画や公共施設マネジメントにまで話が広がり、大変興味深い内容でした。社会の転換期において、やはり、人が減っていった社会をいかに想像していくのが、重要だと考えさせられました。次世代のことを考えた都市計

画はどんなカタチなのか。コンパクトシティという言葉が10年ほど前によく聞きましたが、一時の流行で終わったのかなあ。公共施設については、全ての施設が更新が無理とはわかっていても、いざ自分の利用している施設が廃止されるとなると反対ということは、よく聞くことですが、やはり全体をいかに最適化していく視点で考えなければいけないと思います。できないでなくと、やり始めないと手遅れになる気がします。

- ・空き家がひきおこす諸問題は大きい。

何年以上も放置されている場合は行政のものとして取り扱えるよう法律をかえればよい。

② 第2部 パネルディスカッション

- ・利活用について、ハードル、可能性について発見がありました。

又、人材を育成する事が大事という点は本当に同意しました。

民間と行政の良いコミュニケーションが取れていけば、変化が比較的早く、現れそうですね。

- ・それぞれの立場の話がおもしろい。

岡本さんの話がユニークで指摘がおもしろかった。

- ・空き家の利活用について、具体的話、問題点等、情報収集ができた。

- ・岡本先生の空き家活用の話が印象的であった。

高知の事例を知っている専門家の話をもっとあればよかった。

- ・空家の土地を分割して活用したらという点が興味深かったです。

- ・話題が広く、まとまりが無いように感じたが、話が進むにつれ、課題が見えてきたように感じた。

- ・それぞれの立場から（私の知らなかった）多様な課題があることに気づかされました。

- ・どの分野も、イノベーションのために必要なのは、マッチングできる人材、ネットワーク、行政も縦割から部署ではなくプロジェクト型で仕事をするという視点が必要だと感じた。

- ・空き家や古民家に住むとしたら、やはり修繕費もかかるので、新築を建てた方が良いと思う（実際、住むことを考えたら新築が良い）。また、中山間部の空き家率が高いと出ているが、地震や津波の事を考えると沿岸部も増えているのでは…。津波が絶対に来ると分かっている地域の空き家などに住む事はなかなか難しいので、上手く活用できるようにする事を願う。

- ・“日本人は住宅に完璧を求める”という言葉にドッキリ。私の家も新築。でもやっぱり一生暮らしていくことを思うと、今新築でも40年後にはかなり古くなる。それが中古物件からリノベーションした家屋であれば、さらに家の芯は古い。家はやっぱり快適な方が良いと思うので、なかなか一生の家には選べないかな…。賃貸なら…とは思いますが、マイホームとしては…。それぞれの価値観の問題でしょうね…。

- ・人口が減って空き家になってしまっている市町村での利活用は難しさがあるのでは？目立った観光になる物が、その市町村にあるのかなど課題も大きいと思う。

- ・雑多な意見がきけておもしろかったです。

空き家問題・都市計画・人口減少…横断的に様々な問題が絡み合っており、多岐にわたるため広い視野で捉え考えていかなければならないと思いました。

- ・「家に完璧性を求める」という言葉が印象に残りました。外国では、一軒家のオーナーの高齢者が若者に元気なうちに家を譲り、自分たちは施設へ。若者はその利用料を一定負担するみたいな取り組みがあったような。家族ではない人にも譲れる。相続等難しいかもしれませんが、面白いと思いました。行政は、縦割というのは理解できますが、住民サービスという観点からすると組織横断的な対応が求められていると思います。広聴を大事にしてほしいと思いました。
- ・日本人は新築に住みたい人が多いから空き家に住む人は増えないだろう。こわして新しくたてれば良いのではないか。古い家は耐震対策もしていない。文化的に保存すべきものは残しておいたらよい。高知は人口減だから、これからも空き家は増えていくだろう。自治体としてしっかり取り組んでほしい。

③ シンポジウム全体について

- ・空き家問題だけでなく、問題、山積である事があらためて認識できました。間違いなく、建築業界としても新築から改修、リノベーションに進んでいかないと「空き家」候補を年々多く作っている事になるので…。
- ・ランドバンクの話がおもしろかった。
- ・空き家について、ほとんど知識・情報を持っていなかったが、今日のシンポで少しは理解できて良かったです。
- ・パネルディスカッションの時間が長かった。大変参考になりました。
- ・なんでもそうかもしれないが「知る」ということが大事であると思いました。
- ・内容が広く深いので、1回だけではなく、継続的に開催してはどうか？あるいはテーマを絞って深く掘り下げる内容とするなど。
- ・田舎の空き家、空き農地、空き山地についてもシンポジウムを行っていただければと思います。
- ・大変、全体的に興味深い内容でした。
- ・高齢化や人口の減少は現実的にどうしても解決できない問題であるので、空き家の情報を上手く地域と行政が共有したり、早くから空き家の予防をできる様にしていけたらいいと思いました。
- ・講演を聞いてからのパネルディスカッションという形は、とても分かりやすかったです。パネラーの方も様々な形で不動産に関わっている方で、リアルなところでの話が聞けておもしろかったです。
- ・大変面白く、勉強になりました。また、数年後（H30住宅・土地調査結果公表後など）継続的に開催していただければ嬉しいです。
- ・住民一人ひとりが、まちや行政、政治に関心を持ち、声を出すことが大事だと思います。まず、空き家で困っている人たちが、声を上げることから、始まることあるのかなあ。個人、民間、行政の役割をもう一度考えたいと思います。
- ・数字の羅列はあまり意味がなく頭に入ってこない。家賃が負担になっている老人が多いので、安く提供するように行政が考えてほしい。空き家提案バンクの案は素晴らしいです。行政は縦割で役に立たない。大都市に人が集中するから地方の空き家がへらないと思うので、人口を分散する施策

が必要。

高知の場合は山が84%もあるので宅地が拡散しないと思う。

- ・途中から参加させて頂きましたが、皆さんこんなに関心があるのかと驚きました。街を歩いていると、住んでいない家、賃貸もたくさんあると思います。

東京から高知へ移住してきたのですが、仕事を辞めてから家をさがしていたので、なかなか借りるのが苦労しました。移住を進めているのでしたら（特に高知市の）あいている所を優先的に貸してくれる仕組みがあれば良いと思います。空家が少しはへると思うのですが、まず、高知市に住んで、他の市を見て移る方も居ると思います。

② 連続シンポジウム

第7回 3.11 東日本大震災から高知は学ぶシンポジウム

～7年目の「復興」を知る。そして「わがこと」として考える～

開催日：2018年2月10日（土）

会場：黒潮町立大方あかつき館

報告：i. 及川 貢（宮城県南三陸町保健福祉課係長）

ii. 三浦 勝美（宮城県南三陸町教育委員会生涯学習課長）

iii. 村越 淳（黒潮町情報防災課係長）

パネルディスカッション：

パネラー 及川 貢（同上）

三浦 勝美（同上）

村越 淳（同上）

坂本 茂雄（高知市下知地区減災連絡会・自治研センター理事）

コーディネーター 友永 公生（自治研究センター研究員）

要 旨：

南三陸町役場の三浦課長、及川係長から南三陸町における復興のとりくみや、現状、復興における課題などについて、また、黒潮町役場の村越係長からは、黒潮町での防災対策のとりくみについて報告をいただいた。

その後、報告いただいた3名と、高知市下知地区減災連絡会の坂本事務局長にパネラーとして参加いただき、パネルディスカッションを行った。

坂本さんから高知市下知地区における住民主体での「事前復興計画」のとりくみについての報告があった。また、会場の参加者からも各パネラーに対して質疑が出され、活発な意見交換が行われた。



《参加者アンケート》

① 報告1「南三陸町の復興状況①」について

- ・全住宅が高台移転とはすごいことですね。
- ・他の3人と比べて声が小さいのか聞き取りづらい所が有り…難聴(老人性)なのかな？
- ・発災後、7年経ってようやく今の状態までもっていけるのかということがよくわかった。
- ・生活支援センターの役割や福祉関係の役割の説明がとても分かりやすかった。
- ・住宅再建という次のステージに進んでいるのだなと感じました。高知はまだ“防災”の防ぐ所に重点をおきがちですが、必ず訪れる大事なことなので視野に入れるべきだと感じました。
- ・仮設住宅の集約や、復興住宅への入居の意向調査など、住民の気持ちによりそい、負担をかけないように気遣いながら事業を進めていると知りました。
- ・自分たちも被災者でありながら、住民支援や復興事業をすすめている南三陸町の職員の皆さんはすごいです。
- ・写真を見ながら、現在の復興状況を知る事ができて良かった。
- ・最近では、TV等のマスコミでも震災に関する報道等が少なくなる中、こういった機会に参加できてよかった。
- ・発災後の住居の問題は絶対的に起こることだと思う。発災後に取組始めると仮設住宅等になるが、発災前に他の問題を絡めて解決(発災後の負担を減らす)ことができれば良いと思った。例えば、今、高齢者の1人(2人暮らし)も増えていて、その方が亡くなった時の空き家問題とか、老々介護の問題とか含めて、今の段階から高台の住居整備や移転をすすめていくことはできないだろうか。病院やスーパー等の商業施設を中心とした小コミュニティ(高齢者の街)があっても良いような気がする。そうすれば、デイサービスを施設へ受けに行くのではなく、訪問の形で提供することもできるようになるのではないか。災害に合わせた対策はいつか日常生活に合わなくなるのであれば、日常生活が災害時にもいきるような工夫をすると、発災時の負担が減らせるのではないかと思った。
- ・何度も黒潮町に来て、お話をさせて頂き、ありがとうございます。
- ・災害から復興まで、本当に職員の方は大変な苦労があったと思います。復興が進んでいることを聞いて、良かったと思う反面、人口減になっていること、地域コミュニティの形成により町づくりをしていく事の大変さも感じました。
- ・震災当時のピークが見えない混乱の中、対応されてきた職員のみなさんのご苦労、改めて大変だったろうと思った。7年という期間でやりとげて来られたことに頭がさがる思いがする。いつか来る、と分かっているながら、まだまだ我が事としてとらえきえていない自分がいることに気付いた。
- ・震災前82億であった町の事業費が477億にまでなる。その業務量をこなしていかなければならないということに恐怖さえ覚えたが、事前にできることを計画にし、方向性をもって、我が事として考えていこうと思った。

② 報告2「南三陸町の復興状況②」について

- ・良い事、悪い事が具体的でわかりやすかった。
- ・ハード面、ソフト面における良い点、悪い点を細かく説明していただき参考になった。
- ・報告の内容がとてもわかりやすかった。
- ・ハードは復興できても、ソフトが幅広いので、これからはより自主防の役目が必要に

なるだろうと感じる。

- ・良い点、悪い点が区別されてわかりやすかったが、もう少し、本音の部分が聞きたかった。
- ・東日本大震災の経験の中からも“良い面”をお話しいただけたのが印象に残った。
- ・復興事業に関する交付金や様々な支援が10年間という時限的な制度であることは南三陸の課題にとどまらず、将来の高知における課題にもなるのではないか、被災地の全ての自治体でも恐らく同じような課題を抱えていると思うので、その地元の声で、現在の制度を変えることができないのだろうか。「できるだけ笑顔を大切に」という方針、素敵だと思います。
- ・職員の皆さん、本当に大変な思いをされていると思います。南三陸のみなさんの経験、思いを無駄にははいけないと強く感じました。
- ・キラキラ井、おいしかったです。また食べたいです。
- ・よくこういった話をしてもらった場合、デメリットを多く語られる場合が多いが、メリットも知る事ができて良かった。
- ・生活観が変わった。少しでも笑って生きていくことを目標とする。という言葉がとても印象に残った。
- ・大切な者も失わない為に、一人ひとりが日頃から常に考えていくことが、とても大切だと感じた。
- ・災害の話になると、住居に関連した（避難所とか仮設住宅）コミュニティの話が多いが、個人的には雇用の問題は重要ではないかと思っている。結局、生活するにも家を借りる、建てるにもお金は必要で安定した収入があって生活を取り戻していけるのではないかと思うので、発災後の雇用がスムーズに再開されることが大事でないかと思う。会社が機能しなくなって収入がなくなった人への社会復帰支援についても検討されていると良いと思った。
- ・南三陸の災害後の良かったところ、悪かったことを具体的に話をして頂き、災害について、おこった時、その後の状況を想定し、深く考えることができました。では、行政、住民が今何をするのかなど、事前に準備を個人的にもしていきたいと思いました。
- ・まだまだ業務が大変だろうと思います。職員の方々、お体には充分気をつけて、共に頑張りましょう!!
- ・国が主導してくれるものではなく、各自治体で全てをやっていかなければならないということも改めて痛感。
- ・コミュニティの話、役場組織、若い人とのつながり、等々考えさせられた。
- ・メリット・デメリットが整理され、とても分かりやすかった。

③ 報告3「黒潮町の防災対策」について

- ・避難放棄者を出さない、あきらめない。←いい言葉です。
- ・記入シート、カルテが詳細すぎていいですね。
- ・大いに参考になる内容だったけれど、ペースが早くて資料をめくるのが追いつかない。帰ってじっくり見よう。
- ・これからが正念場。
- ・避難訓練→避難整備等職員の負担は大きい住民と一体となり共働してがんばってください。

- ・すごい一言です。
- ・先を見て、足元を固めている。防災文化、いい言葉です。
- ・地区の防災計画の参考になりました。
- ・DVDリアルでしたが、参考になりました。
- ・「全職員から防災担当」という取組みは素晴らしいと思った。その結果として、全地域で同じように計画がすすみ、とても早いスピード感で対策が進んでいるのではないかと思う。
- ・住民の方の防災意識の高さに驚かされました。
- ・想像以上の取組みに驚きました。
- ・学ぶ所がたくさんありました。
- ・黒潮町の防災のとりくみを一連の流れとして外部の人にも分かりやすくまとめた話を聞いて、自分たちの仕事が一連のとりくみのどこにあたるかなど、客観的な視点で見て、あらためて知る事ができて良かったです。
- ・高知のTVか新聞報道で、黒潮町民の防災意識が高いことは知っていたが、話を聞いて、ここまですごいのかと感心した。また職員の防災意識も高いようで、とてもすばらしいと思った。
- ・町にはすばらしい課長さんがおられたと思いますが、町として脈々と若い職員さんたちもその取組み、スピリッツを引き継いでおられるんだなと感じ、今後も町の為にがんばってほしいなと思いました。
- ・とても魅力的な取組みをされていると思いました。行政から働きかけて町民の方を上手に巻き込んだ形で対策できているところがすごいと思います。市民の方に準備の必要性をどう伝えていけば良いかということが難しいことだと思っていたが、それをクリアできていて参考になること多いと思った。カルテについてもしっかりとものができており、使い方によっては発災後の安否確認をするのにも効果的に使えるように思えた。
- ・子どもたちの力や能力は、すばらしいと思います。
- ・大人も一緒に「黒潮町」という町を災害も含めて考えていくことが大切だと思いました。
- ・改めて、黒潮がんばっているなと思ったし、今やっていることの意味も深めることができた。

④ パネルディスカッション「7年目の復興を知る」について

- ・南三陸町、黒潮町と下知地区は人口的に同じようなのに訓練等の参加人数に差がありすぎて、なぜなのかと不思議に思っています。
- ・人口比率に対して、南三陸町、黒潮町と高知市の防災担当職員の人数に差があるようですね。
- ・もう少しフロアからの質問とかがあれば、もっと深まったかなと思う。
- ・自主防災については、地区のまとまりが大事であり、昔のような近所づきあいが大切だと思う。
- ・「女性の力」…女性が先頭になって動けば、より細かい行動ができると思う。
- ・「高台へ移転すれば防災意識が下がる…」と南三陸町の職員の方から意見が出た時、少し不安になった。

- ・「災害にも強いまち」という下知地区の言葉が印象に残りました。防災で一番大切なのは、人と人とのつながりだとあらためて感じた。
- ・支援者への支援の重要性について、やはり職員など当事者側からは言い出すことが難しい実態があることをお伺いし、あらためて事前に準備をすること、NPOなど他組織をどう巻き込むのかを考えることが必要なのかなと再認識した。
- ・住民と行政の関係性、いかに自分事とするのか、まだまだ課題が残っている。
- ・下知地区の地区防災計画の作り方の話を聞いて、黒潮町のとりくみ方とはまた違うこと、自助・共助の視点で主体的に作っているのですごくいいなと思います。私は行政職員ですが、いい意味で「行政をあてにしない地区、住民」が増えると、もっと自主防や地区防災計画のとりくみが進むと感じました。
- ・南三陸町から来られている4人の声や意見も聞くことができてよかった。
- ・4人の方々からそれぞれお話が伺えて良かったです。
- ・実際に津波に流された三浦さんの言葉の1つ1つが重く感じました。
- ・やはり「わがこととして考える」ということにつきますよね。そして「つながる」ことの大切さを再認識しました。
- ・「事前復興」という考え方は大事だと思いました。震災は一瞬だけど、復旧復興はずっと続くもので、長引けば長引くほど、疲弊も大きくなると思うので、先に考えておけることは考えておいてすぐに実行して計画通りにすすめていけば良いと思った。

- ③ セミナーについては、毎年講師をお願いしており連続で8回目となる、哲学者の内山節さんを今回もお招きし、「改元で、東京オリンピックで、日本はどう変わる？高知はどう変わる？」と題して講演していただいた。概要は以下のとおり（詳細については当センターHPに収載）である。

【内山節セミナー】

開催日：2018年3月1日（木）

会場：高知県立人権啓発センター

テーマ：改元で、東京オリンピックで、日本はどう変わる？高知はどう変わる？

講師：内山 節（哲学者）

要 旨：

内山氏は、「天皇が変わろうが、オリンピックがあろうが何も変わることはなく、変わっていくのは、一つの次代の終わりを迎えているという感覚だけが静かに広がっているのではなないかと感じている」との考えを示した。

「経済発展が人々を豊かにする。」「学歴で一生が決まる。」といった戦後的な昭和な価値観が価値を失っており、そのことが社会の中で浸透してきているのではないかと指摘。一方で、経済界など高度成長した時



代に戻り、経済を軸にした強い日本を求める人たちも出てくるだろうとし、今の時代は昭和に戻るのか、脱昭和で模索をしていくのかという対立みたいなものが社会の奥の方でうごめいているとの見解を示した。

そのうえで、大きな歴史として終わりつつある時代を我々がどういう風に引き受けていくのかが問われている時代ではないかとした。

3. 調査・研究活動について

- (1) 「中山間地域における内発的発展地域産業モデル研究」については、実施に当たって、高知銀行地域経済振興財団との共同研究とすることを追求し、学識経験者の指導を受けながら進めることを計画してきたが、核となる人物の多忙等により、研究への着手が困難であることから、研究を断念することとした。
- (2) 2015年度～2016年度にかけ、全7回開催した連続シンポジウム「少子化の流れに抗して」を受け、高知県における少子化対策について、県に対しての政策提言を行うために、2017年1月に政策づくりの検討会を設置し、全10回（2016年度2回、2017年度8回）の会議において内容のとりまとめを行い、9月11日に高知県知事に提言を行うとともに、意見交換を行った。（提言内容はホームページに収載）
- (3) 政府が女性の活躍推進に力を入れる一方で、まだまだ女性が活躍できる社会環境とはいえない状況であり、また、依然として女性に対する先入観も存在している。こうした中にもあっても、高知県内では多くの女性が活躍しており、また積極的に女性を登用する企業も見受けられることから、県内で働く女性を対象にしたアンケートにより実態調査を行い、働く女性がどうすればより働きやすく、暮らしやすく、豊かに生きていける社会が形成されるのかについての研究に着手をした。

4. 組織運営について

- (1) 2017年度定時総会の開催
 - ① 日 時 2017年6月10日（土） 15時00分～16時00分
 - ② 場 所 三翠園6階「高見」
 - ③ 出席状況 会員総数73名（団体会員28名、個人会員45名）中
出席61名（団体会員27名、個人会員34名）
うち書面表決書14名（団体会員9名、個人会員5名）
委任状23名（団体会員12名、個人会員11名）
 - ④ 議 事 第1号議案 2016年度事業報告
第2号議案 2016年度収支報告及び監査報告

(2) 理事会の開催

① 2017年度第1回理事会

- ア. 日 時 2017年5月20日(土) 10時00分～11時15分
- イ. 場 所 自治労会館
- ウ. 出席状況 理事・監事 15名中12人出席
- エ. 議 事 第1号議案 2016年度事業報告の承認について
第2号議案 2016年度貸借対照表・正味財産増減計算書、財産目録の承認について
第3号議案 旅費規程の変更について

② 2017年度第2回理事会

- ア. 日 時 2017年9月9日(土) 10時00分～11時20分
- イ. 場 所 自治労会館
- ウ. 出席状況 理事・監事 15名中10人出席
- エ. 議 事 第1号議案 県への少子化政策提言について
第2号議案 9/23 シンポジウムについて
第3号議案 新規会員の承認について

③ 2017年度第3回理事会

- ア. 日 時 2018年1月20日(土) 10時00分～11時10分
- イ. 場 所 自治労会館
- ウ. 出席状況 理事・監事 15名中12名出席
- エ. 議 事 第1号議案 女性の活躍に関する調査について
第2号議案 嘱託職員規程の改正について
第3号議案 当面のセミナー・シンポジウムについて

④ 2017年度第4回理事会

- ア. 日 時 2018年3月17日(土) 10時00分～11時30分
- イ. 場 所 自治労会館
- ウ. 出席状況 理事・監事 15名中12名
- エ. 議 事 第1号議案 2018年度事業計画(案)について
第2号議案 2018年度収支予算書(案)について
第3号議案 2018年度定時総会の日程について
第4号議案 2018年度第1回理事会の日程について
第5号議案 公益法人立入検査結果について

5. 2017 年度収支報告および監査報告

貸借対照表

2018 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金・預金	1,895,974	1,903,329	△ 7,355
前払金	30,000	30,000	0
流動資産合計	1,925,974	1,933,329	△ 7,355
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	2,227,232	1,988,232	239,000
事業積立預金	530,000	0	530,000
特定資産合計	2,757,232	1,988,232	769,000
固定資産合計	2,757,232	1,988,232	769,000
資産合計	4,683,206	3,921,561	761,645
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	102,374	133,268	△ 30,894
預り金	82,280	49,242	△ 33,038
流動負債合計	184,654	182,510	2,144
2. 固定負債			
退職給付引当金 1	2,004,509	1,789,409	215,100
退職給付引当金 2	222,723	198,823	23,900
固定負債合計	2,227,232	1,988,232	239,000
負債合計	2,411,886	2,170,742	241,144
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	2,271,320	1,750,819	520,501
(内特定資産への充当額)	(2,757,232)	(1,988,232)	(769,000)
正味財産合計	2,271,320	1,750,819	520,501
負債及び正味財産合計	4,683,206	3,921,561	761,645

貸借対照表内訳表

2018年3月31日現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金・預金	1,895,974	0	0	1,895,974
前払金	30,000	0	0	30,000
流動資産合計	1,925,974	0	0	1,925,974
2. 固定資産				
(1) 特定資産				
退職給付引当資産	2,004,509	222,723	0	2,227,232
事業積立預金	530,000	0	0	530,000
特定資産合計	2,534,509	222,723	0	2,757,232
固定資産合計	2,534,509	222,723	0	2,757,232
資産合計	4,460,483	222,723	0	4,683,206
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	102,374	0	0	102,374
預り金	82,280	0	0	82,280
流動負債合計	184,654	0	0	184,654
2. 固定負債				
退職給付引当金 1	2,004,509	0	0	2,004,509
退職給付引当金 2	0	222,723	0	222,723
固定負債合計	2,004,509	222,723	0	2,227,232
負債合計	2,189,163	222,723	0	2,411,886
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	2,271,320	0	0	2,271,320
(内特定資産への充当額)	(2,534,509)	(222,723)	(0)	(2,757,232)
正味財産合計	2,271,320	0	0	2,271,320
負債及び正味財産合計	4,460,483	222,723	0	4,683,206

貸借対照表附属明細書

財務諸表の注記に記載しているため、附属明細書の記載は省略しています。

正味財産増減計算書

2017年4月1日から2018年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	(197)	(347)	(△ 150)
特定資産運用益	197	347	△ 150
受取会費	(2,049,100)	(2,019,136)	(29,964)
正会員受取会費	2,049,100	2,019,136	29,964
受取補助金等	(500,000)	(500,000)	(0)
受取民間助成金	500,000	500,000	0
受取寄付金	(5,800,000)	(5,800,000)	(0)
受取寄付金	5,800,000	5,800,000	0
雑収益	(34)	(113)	(△ 79)
受取利息	34	113	△ 79
経常収益計	8,349,331	8,319,596	29,735
(2) 経常費用			
事業費	(6,499,333)	(7,774,343)	(△ 1,275,010)
給料手当	3,022,849	2,980,910	41,939
退職給付費用	215,100	309,809	△ 94,709
福利厚生費	509,822	508,987	835
旅費研究費	197,751	252,904	△ 55,153
通信運搬費	97,208	177,482	△ 80,274
事務賃借料	377,838	405,705	△ 27,867
新聞図書費	20,195	28,575	△ 8,380
研修会議費	537,791	1,037,873	△ 500,082
消耗品費	41,727	14,727	27,000
印刷製本費	1,081,530	1,010,490	71,040
諸謝金	397,522	1,046,881	△ 649,359
管理費	(1,329,497)	(1,471,809)	(△ 142,312)
給料手当	335,872	331,214	4,658
退職給付費用	23,900	34,423	△ 10,523
福利厚生費	56,649	56,551	98
会議研修費	404,429	544,971	△ 140,542
通信運搬費	50,265	42,606	7,659
事務賃借料	163,691	174,222	△ 10,531
消耗品費	35,491	28,622	6,869
支払手数料	259,200	259,200	0
経常費用計	7,828,830	9,246,152	△ 1,417,322
評価損益等調整前当期経常増減額	520,501	△ 926,556	1,447,057
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	520,501	△ 926,556	1,447,057
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	520,501	△ 926,556	1,447,057
一般正味財産期首残高	1,750,819	2,677,375	△ 926,556
一般正味財産期末残高	2,271,320	1,750,819	520,501
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,271,320	1,750,819	520,501

正味財産増減計算書内訳表

2017年4月1日から2018年3月31日まで

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特定資産運用益	(178)	(19)	(0)	(197)
特定資産運用益	178	19	0	197
受取会費	(719,656)	(1,329,444)	(0)	(2,049,100)
正会員受取会費	719,656	1,329,444	0	2,049,100
受取補助金等	(500,000)	(0)	(0)	(500,000)
受取民間助成金	500,000	0	0	500,000
受取寄付金	(5,800,000)	(0)	(0)	(5,800,000)
受取寄付金	5,800,000	0	0	5,800,000
雑収益	(0)	(34)	(0)	(34)
受取利息	0	34	0	34
経常収益計	7,019,834	1,329,497	0	8,349,331
(2) 経常費用				
事業費	(6,499,333)	(0)	(0)	(6,499,333)
給料手当	3,022,849	0	0	3,022,849
退職給付費用	215,100	0	0	215,100
福利厚生費	509,822	0	0	509,822
旅費研究費	197,751	0	0	197,751
通信運搬費	97,208	0	0	97,208
事務賃借料	377,838	0	0	377,838
新聞図書費	20,195	0	0	20,195
研修会議費	537,791	0	0	537,791
消耗品費	41,727	0	0	41,727
印刷製本費	1,081,530	0	0	1,081,530
諸謝金	397,522	0	0	397,522
管理費	(0)	(1,329,497)	(0)	(1,329,497)
給料手当	0	335,872	0	335,872
退職給付費用	0	23,900	0	23,900
福利厚生費	0	56,649	0	56,649
会議研修費	0	404,429	0	404,429
通信運搬費	0	50,265	0	50,265
事務賃借料	0	163,691	0	163,691
消耗品費	0	35,491	0	35,491
支払手数料	0	259,200	0	259,200
経常費用計	6,499,333	1,329,497	0	7,828,830
評価損益等調整前当期経常増減額	520,501	0	0	520,501
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	520,501	0	0	520,501
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	520,501	0	0	520,501
一般正味財産期首残高	1,750,819	0	0	1,750,819
一般正味財産期末残高	2,271,320	0	0	2,271,320
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,271,320	0	0	2,271,320

正味財産増減計算書附属明細書

財務諸表の注記に記載しているため、附属明細書の記載は省略しています。

財産目録

2018年3月31日現在

(単位：円)

科目	場所等	物量	使用目的等	金額
I 資産の部				
1. 流動資産				1,895,974
現金・預金				
普通預金	四国労働金庫 高知支店 普通預金 3377677		運転資金として保有	1,895,974
前払金	(一財) 高知県自治労会館		家賃の前払い分	30,000
流動資産合計				1,925,974
2. 固定資産				2,757,232
(1) 特定資産				
退職給付引当資産	四国労働金庫 高知支店 定期預金 4294390		公益目的事業の退職給付引当金見合い資金として管理している。	2,004,509
			法人会計の退職給付引当金見合い資金として管理している。	222,723
事業積立預金	四国労働金庫 高知支店 普通預金 3377677		特定費用準備資金であり公益社団法人移行10周年事業に使用する為規定により積立、管理している。	530,000
特定資産合計				2,757,232
固定資産合計				2,757,232
資産合計				4,683,206
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金				102,374
	株式会社英光事務機		パフォーマンスチャージ代金の未払い分	2,055
	日本郵便株式会社		後納郵便代金の未払い分	1,139
	厚生労働省		社会保険料3月分	73,272
	株式会社朝日ネット		プロバイダ料の未払い分	1,620
	N T Tファイナンス株式会社		電話料金の未払い分	13,162
	ヤマト運輸		運賃の未払い分	2,088
	理事		行動旅費の未払い分	5,130
	従業員		残業手当の未払い分	3,908
預り金				82,280
	従業員		従業員から預かった社会保険料	72,168
	従業員		従業員から預かった雇用保険料	10,112
流動負債合計				184,654
2. 固定負債				
退職給付引当金 1			公益目的事業の従業員に対する退職金支払いに備えたもの。	2,004,509
退職給付引当金 2			法人会計の従業員に対する退職金支払いに備えたもの。	222,723
固定負債合計				2,227,232
負債合計				2,411,886
正味財産				2,271,320

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」（平成 20 年 4 月 11 日 平成 21 年 10 月 16 日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用しています。

（1）引当金の計上基準

退職給付引当金は、社内規定による期末現在の要支給額により計上しております。

（2）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式により処理しております。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

（単位：円）

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	1,988,232	239,000	0	2,227,232
事業積立預金	0	530,000	0	530,000
合 計	1,988,232	769,000	0	2,757,232

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

（単位：円）

科 目	当期末残高	（うち指定正味財産 からの充当額）	（うち一般正味財産 からの充当額）	（うち負債に 対応する額）
特定資産				
退職給付引当資産	2,227,232	0	（ 2,227,232）	0
事業積立預金	530,000	0	（ 530,000）	0
合 計	2,757,232	（ 0）	（ 2,757,232）	（ 0）

4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりです。

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
2017 年度研究助成費	（一財）自治労会館	0	500,000	500,000	0	
合 計		0	500,000	500,000	0	

監査報告書

公益社団法人 高知県自治研究センター

理事長 筒井 早智子 殿

私たち監事は、2017（平成 29）年 4 月 1 日から 2018（平成 30）年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び事務局からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見


(1) 事業報告等の監査結果


- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

2018 年 5 月 7 日

公益社団法人 高知県自治研究センター
監 事 國弘 昭 

公益社団法人 高知県自治研究センター
監 事 津野 誠 

6. 高知県自治研究センター2017年度会員名簿

団体会員

1	高知県職連合
2	高知市職労
3	土佐清水市職労
4	宿毛市職労
5	須崎市職労
6	土佐市職労
7	南国市職労
8	香南市職労
9	黒潮町職労
10	中土佐町職労
11	日高村職労
12	いの町職労
13	仁淀川町職労
14	馬路村職労
15	共済労組
16	仁淀衛生事務労組
17	国保労組
18	住宅供給公社労組
19	建設技術公社労組
20	支援員労組
21	須崎市民保労組
22	高知競輪競馬労組
23	県本部書記労
24	自治労高知県本部
25	連合高知連合会
26	全水道高知水道労組
27	黒潮町
28	防治会

個人会員

1	畦地 和也
2	石川 俊二
3	折田 晃一
4	川田 勲
5	川崎 敬子
6	坂本 茂雄
7	筒井 早智子
8	堀 洋子
9	山崎 秀一
10	山村 一正
11	山本 晋平
12	山本 洋子
13	諸石 恵子
14	田尾 隆
15	福永 明
16	津野 誠
17	中山 久美
18	森下 乃文
19	児嶋 鈴香
20	高橋 立一
21	中平 正幸
22	弘井 貴之
23	岡林 俊司
24	間嶋 祐一
25	金子 伸
26	岡崎 邦子
27	武内 則男
28	竹村 暢文
29	田鍋 剛
30	中山 研心
31	宮本 博行
32	森 幹夫
33	石井 孝
34	関 隆
35	矢野 佳仁
36	東森 歩
37	山下 久人
38	國弘 昭
39	山中 誠
40	西岡 信喜
41	大野 辰哉
42	山崎 幹生
43	森 尚子
44	福田 善乙
45	横山 定子